

# 令和5年度 第9回 朝日丘地域会議 会議録

■日 時 令和5年12月14日(木) 午後6時30分～7時45分

■場 所 朝日丘交流館 2階 21会議室

■出席者 < 委員 > 梅村 芳広 川上 健児 北垣 啓子  
北村 親樹 佐藤 貢 塩谷 耕一  
鈴木 宏昌 永山 哲 成瀬 和美  
縄村 恵子 日高 守 矢頭 伸子  
山本 千工子  
< 市長 > 太田 稔彦  
< 関係職員 > 辻 邦恵(企画政策部長) 後藤 哲也(地域振興部長)  
花田 潤治(都市計画課長) 宮川 恭子(企画課担当長)  
< 事務局 > 岡本 裕之(地域支援課長) 松下 誠(地域支援課副課長)  
田嶋 優俊(地域支援課担当長) 吉村 亜美(地域支援課主事)

■欠席者 < 委員 > 大岩 高也 森波 悟

- 次 第
- 1 開会、会長あいさつ
  - 2 市長あいさつ
  - 3 答申について  
(1) 答申書の授受  
(2) 意見交換
  - 4 その他  
(1) 地域会議の進め方について(協議)  
(2) 防災イベントの実施について(報告)
  - 5 閉会、副会長あいさつ

## ■議 事 (要約)

### 3 答申について

#### (2) 意見交換

市長との意見交換の内容は別紙のとおり。

#### 4 その他

##### (1) 地域会議の進め方について(協議)

事務局から地域会議の進め方を提案した。協議の結果、以下のとおり決定した。

##### ●令和5年度

- ・1・2月会議…新博物館の勉強会及び地域課題の整理
- ・3月会議…令和5年度の活動まとめ及び令和6年度に引き継ぐ地域課題の確認

##### ●令和6年度

令和5年度に整理した地域課題について改めて協議し、地域と行政が協働で課題解決できそうなことがあれば、提言及び事業化を目指す。

##### (2) 防災イベントの実施について(報告)

事務局から11月11日に地域課題解決事業で実施した防災イベント「みんなの防災フェス」について報告した。

<主な意見>

- ・住民がつながるようなイベントを今後も無理なく継続できると良い。
- ・各自治区などで開催する防災講演会等のバリエーションが増えると良い。

(別紙) 市長との意見交換

発言	内容
委員	今後第9次総合計画をどのように市民に周知していくのか。
市長	第8次総合計画を策定した時は、「WE LOVE とよた」条例をつくり、様々な立場にある市民でも「わくわくする世界一楽しいふるさと」という一つのものを目指せるとよいと考えた。また、細かい計画の内容は、沢山の意見を取り入れた。総合計画は議論の場で進む方向に迷った際に立ち返る基本的な考え方になると良いと考えている。私が若い頃に作成したある計画図書はゲーム要素を取り入れるなどの工夫をしたことがある。市民にとって楽しく、分かりやすいものにしたい。
委員	地域会議や自治区など、地域の活動の場にもっと女性が参画できるとよい。行政から呼びかけることができないか。
市長	全市的に統一ルールを定めるより、朝日丘地域特有のルールとして、先進的な取組として実施すると良いと思う。この事例を他地域にも展開し、最終的に全市に広がれば素晴らしい。
委員	答申に向けた協議では、めざす姿「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」の「楽しむ」の部分について、議論が白熱した。また、朝日丘地域としては、都市構造の（仮）えきちか居住誘導エリアについて、新上拳母駅・上拳母駅周辺の発展を強く要望したいと考えている。
市長	めざす姿の「楽しむ」という部分は、人によって解釈の余地があるが「明るい」「元気」などポジティブなイメージには違いないと思う。また、駅周辺の発展を要望する声は昔から上がっており、課題として認識している。
委員	民生児童委員やヘルスサポートリーダーなどの活動に、女性が大変活躍している。見守り活動の際に、高齢者から「自分は先が短いから」というマイナスな考えを聞くことがよくあるため、明るいミライに向かって過ごしてほしいと思っている。総合計画には、ミライ実現戦略 2030 の横断的な目標に「こども」とあるが、高齢者を含め全年代の市民を切り捨てない考え方をしてほしい。
市長	「こどもにやさしい社会=全ての人にやさしい社会」という考えであるが、違う受け止め方をされるという意見を聞く。伝え方・表現方法を工夫したいと思う。
市長	高齢者を含め市民一人ひとりが自身のできることを行い、人に感謝される。社会の一員という実感をもって暮らせる社会（一人一役社会）を目指している。例えば、高齢者の移動支援事業がある。申し訳ない気持ちから利用する高齢者が少ないと聞いている。例えば、利用する高齢者は、お礼に自身の得意なこと（例えば趣味や話）を地域のこどもたちに提供するといった、助け合いが循環する仕組みがあると良いと思う。
市長	答申書の中に、「自治区・子ども会・高齢者クラブ等の加入者や行事参加者が減少傾向」とある。役員のなり手不足についても、コロナ禍を経てより深刻な課題だと聞いている。この課題意識を地域が持っていることは重要だと思う。この課題を放置すると、地域社会はどんどん衰退していく。現在行政から地域へ様々な協力依頼をしており、現状の仕組みを見直すことは行政の課題であるが、何でも行政がやってしまうと、地域社会を弱めてしまう恐れもある。
委員	子ども会が消滅していることによって、自治区行事への参加者減少など、地域の子どもと自治区とのつながりが薄まってしまふことを懸念している。
市長	子ども会の本来の目的は、学年を超えた人間関係づくりだと思う。従来のスポーツ活動にこだわらず、例えば自治区集会所を解放して地域のこどもが自由に集う場をつくり、地域の大人が見守る。子ども会消滅は、真に必要な活動を改めて考え、地域住民の関係づくりを行う良いきっかけと捉えることもできると思う。